

オープン

講座No. **OP1**

白山キャンパス

定員50名／対面
95名／Web

ハイブリッド型



坂口安吾 生誕120年公開講座

坂口安吾と同時代作家たち



開催期間	11月7日(土)・11月14日(土) 土曜日：全2回
時間	13:00～15:15 (135分)
受講料	無料
開催場所	「受講証」メールに記載
申込期間	9月1日(火)～10月28日(水)

11月7日(土)	第1回	13:00～14:00	山本 亮介(東洋大学文学部教授)	●安吾と横光利一
	第2回	14:15～15:15	山本 亮介(東洋大学文学部教授) 春日 溪太(東洋大学博士後期課程学生)	●安吾と石川淳
11月14日(土)	第3回	13:00～14:00	青木 怜依奈(東洋大学文学部非常勤講師)	●安吾と牧野信一
	第4回	14:15～15:15	齋藤 樹里(実践女子大学文学部専任講師)	●安吾と太宰治

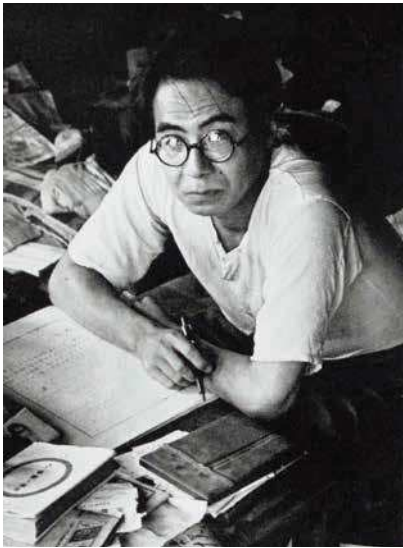
講座の目標 昭和初年代に東洋大学で学んだ作家坂口安吾(印度哲学倫理学科・1930年卒)が、今年生誕120年を迎えます。記念の年にあたり、作家ゆかりの東洋大学をその人と文学の豊かな魅力へ触れる場にしたいと思います。

坂口安吾が戦前戦後に渡って生み出した多彩な作品は、近年に至るまで高く評価されており、いまなお多くの読者を惹きつけてやみません。それらの作品は、言うまでもなく坂口安吾という稀有な才能が独自に創り上げたものと言えます。ただし、安吾がその個性を発揮していく過程に、同じ時代を生きた多くの作家たちとの出会いがあったことも見逃せません。本講座では、安吾に直接、間接の影響を与えた同時代作家のうち、横光利一・牧野信一・石川淳・太宰治の四名を取り上げ、安吾の文学活動との関わりについて、さまざまな角度から紹介していきます。当時の先端を行く作家たちの思想や表現と並べてみると、安吾の書き記した言葉が新たな光を帯びて現れることでしょう。また、他の作家たちに対する態度や発言から、人間坂口安吾の個性や魅力を垣間見ることできるはずです。本講座が、安吾の人と文学をより深く理解するガイドになるとともに、安吾を通して他の作家・作品の魅力に触れるきっかけにもなればと思います。

さかくちあんご

坂口安吾 プロフィール

1906年(明治39年)、新潟県生まれ。東洋大学印度哲学倫理学科卒業。
類まれな知性と独自の文学観を持ち、戦前・戦中から創作活動を続ける。
終戦直後の1946年に発表したエッセイ『墮落論』と小説『白痴』で一躍時代の寵児となり、太宰治や織田作之助らとともに「新戯作派(無頼派)」の旗手として文壇を牽引した。
小説、エッセイ、歴史研究、推理小説(『不連続殺人事件』)など、ジャンルを問わず人間の本質を鋭く突く作品を数多く残す。
1955年(昭和30年)没。



出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

オープン講座